



はーと なび



一般社団法人 全国腎臓病協議会 通院介護委員会

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-29-24 パシフィックスクエア千石 802

2022年9月20日発行

TEL: 03 (5395) 2631 FAX: 03 (5395) 2831 E-mail: sougei@zjk.or.jp

11月5日・6日の研修会は「拡大事務局長会議」に通院介護研修会相当部分は11月6日午前開催決定

11月に開催を予定していた通院介護研修会は「拡大事務局長会議」として、全国事務局長会議、代表者シンポジウムと合同で開催されることになりました。通院介護委員会では会議二日目（11月6日午前）に、患者自身が高齢化に伴う諸課題を自分事として向き合う機会となるよう、患者の介護の実態をテーマとした研修を行います。開催方式は“対面”を予定しており、講義のほかディスカッションを中心としたグループワークを

企画しています（ただし、新型コロナウイルスの感染状況によっては、今後開催方式をWEB会議とし、研修内容を一部変更する可能性があります）。

全腎協による通院介護の研修は2019年以降新型コロナの影響等により行われておらず、今回は久々の開催となります。有意義な研修となるべく、引き続き通院介護委員会では準備を行って参ります。

アルコール検知器を用いた酒気帯び確認 延期の方針 検知器の流通数不足が理由 延期期間は「当分の間」

7月14日、警察庁は10月1日開始を予定していた自家用車（白ナンバー）5台以上または乗車定員が11人以上の自動車を1台使用する事業所におけるアルコール検知器を用いた酒気帯び確認について、「最近のアルコール検知器の供給状況等を踏まえ、当分の間、安全運転管理者に対するアルコール検知器の使用義務化に係る規定を適用しないこととする」との方針を示し、延期に対するパブリックコメントの募集を開始しました（意見募集は8月13日で締め切られています）。

背景には、アルコール検知器のセンサーに

用いられる半導体の世界的な不足という社会情勢があります。日本国内のアルコール検知器メーカーがつくる業界団体は、半導体不足などから、10月1日までに市場が求める台数の確保は不可能であるとする意見書を警察庁に提出していました。

アルコール検知器を用いた酒気帯び確認が延期されたとしても、目視等による運転者の酒気帯び確認やその記録保持の義務化については延期されません。運行管理の責任者の方はドライバーの酒気帯び確認とその記録が必須業務となりますので、各送迎事業所では記録に必要な準備等を行ってください。

《トピックス》

行政担当者が感じる移動支援の課題 第1位は「ボランティアの高齢化」

全国の市区町村の移動支援サービス担当者を対象としたアンケート調査から、行政側が移動支援について最も問題と感じることは、「ボランティア団体等の高齢化が進み送迎を行うことが難しくなっている」ということが明らかになりました。

この調査は今年1～2月に、市区町村行政の介護予防・日常生活支援総合事業に基づく移動支援に係る実態やニーズを把握することを目的に（一財）医療経済研究機構が実施したものです。

報告書によると、問い「高齢者の移動支援・送迎の取組活動を新たに創出、または既にある場合はより拡充していくことを想定した場合に感じる問題は何か」に対し、“問題と感じる”という回答が最も多かったのは「ボランティア団体等の高齢化が進み、送迎を行うことが難しくなっている」で、回答割合は51.0%となりました。

次いで「地域課題として認識はされているが、関係者を巻き込んだ議論を行う核となる人材がない」（“問題と感じる”と回答した人の割合45.7%）、「事故や安全上の不安などを理由に、取組を行う団体等がない」（“問題と感じる”と回答した人の割合43.4%）と、いずれも担い手不足に関係する内容が上位を占めました。

今回上記の調査で分かったことは、行政も送迎団体も同じ課題意識を持っているということです。自家用有償旅客運送の制度草創期から活動を続けている団体は多くが創設20年以上となり、設立当初から携わってきたボランティアが高齢化にともない引退するということは今や珍しいことではありません。また、新規ボランティアの獲

得はどの団体も抱える課題です。官民に共通の課題認識があるということは、共に解決にむけた取組を行うことができるはずで、今後は、担い手の世代交代を促進させるべく行政と送迎団体の協働による取り組みを模索する必要があると考えられます。

【参考】

介護予防・日常生活支援総合事業に基づく移動支援サービスの効果的な運営に関する調査研究事業 報告書

<https://www.ihep.jp/publications/elderly-search/?y=2021#post-78763>

《事務局より》

■お悔やみ

7月22日、NPO 法人支援の会ひまわり（事業所所在地：兵庫県西宮市）元理事長小泉邦昭さんがご逝去されました。

小泉さんは長年支援の会ひまわりにおいて送迎活動に取り組みられたほか、通院介護委員会の委員として全腎協の通院介護支援事業にもご尽力いただきました。また、兵庫県腎友会の役員ならびに全腎協社員代表などを歴任され、患者会活動にも大きく貢献されました。生前のご功績に敬意を表するとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

■活動状況報告書の提出についてお願い

通院送迎事業所の皆さまにはいつも通院介護支援事業「活動状況報告書」の提出にご協力いただき、ありがとうございます。ご多用中恐縮ですが、引き続きご協力くださいますようお願い申し上げます。また、お手元に未提出の古い報告書があります場合は、急ぎご提出ください。